

外国人ボランティアと地域住民による 大沼ラムサール条約地区の環境保全活動

イベント参加者の満足度	82%
活動に対する問合せ件数	15 件
活動の全体目標に対する達成度	65%



地元住民とワークキャンパーの環境保全活動

◆成果と工夫したポイント

- 成果** セミナーの参加者が目標値を 12 名上回ったことから、関心の高さが伺えた。大沼ファンクラブグッズの作成に関して、外部より協力の提案を頂いた。大沼ラムサール女子会について多くの関心が寄せられた。
- 工夫** 大沼ラムサール協議会をラムサール 3 本の柱である環境保全と、環境教育・ワイズユース（賢明な利用）の 2 部会に分けテーマを絞り、スムーズな会議運営ができた。

課 題

2012 年にラムサール条約に登録された大沼において、農業や漁業、観光業などそれぞれの業種間の対立が残っており、大沼の環境保全活動を行う上で足並みが揃っていない。

活動内容

課題を解決するために、地元住民の対話の場を創る段階で、外部の人を巻き込むことを試みた。外国人ボランティアや大学などの研究機関を交えた話し合いの場を持つことにより、状況の打開を目指した。大沼ラムサール協議会（3 回）、シンポジウム（2 回、参加者各 50 名）、セミナー（2 回、91 名）、エコツアー（1 回、19 名）などを開催した。WEB の内容の充実や、大沼ファンクラブ会員の増強にも力を注いだ。



大沼ラムサール女子会の
ユニホームお披露目

今後の課題

東京大学、北大など約 10 の研究機関が大沼の取組みに関心を持ち、状況調査などを行っていることから、住民とどのような協力体制をつくっていくかが課題であるので、外部団体とのきめ細かい連携や協力を試みる。